

「シンプルに捉える」

50歳後半を迎えたころから、自分の抱える問題や世間の問題をできる限りシンプルに考えようとするようになった感がある。複雑に絡み合う問題も実は紐解いて考えれば単純な問題だと言うつもりはない。問題の解決策の方向はどんなに複雑に錯綜していても、意外とシンプルに組み立てられるのではないかと言う想いである。

きっかけは経済雑誌で「死刑廃止・継続」の座談会記録を読んだことであつたと思う。死刑と戦争は合法的な殺人だという主張もあれば、遺族の被害者感情を鑑みれば、死刑廃止は単純に決めるべきでないと言う人もいる。解決策の幹がはっきりしないので、いつまで当たっても枝葉の論争に終止して結論が出ず、日本はOECD加盟38か国の中で米・韓国に並ぶ死刑存続国でいる。揺るぎない根幹は、いかなる理由があろうとも国家・国民に人の命を奪う権利は存在しないということに誰もが同意するだろう。死刑廃止に向けて議論を進められない日本、もはや日本は先進国でないという評価の一因でもある。解決の方向指針は極めてシンプルであり、遺族の被害者感情の議論は枝葉であると言えればひんしゆくだろうか。

さて、ジャニーズ問題をめぐる報道は興味深くつぶさに見聞きしているが、日増しに複雑でややこしい意見の乱立にいささか疲れ気味である。解決策はもっとシンプルな方針でいい。

企業がタレントのCM起用をキャンセルし始めた。タレントには何ら責任はないという主張もあり、その企業への非難も出ている。何か違うと感じる。また、ジャニーズの名称を残すのか、未だ結論が出たという報道はない。判断は難しいのだろう。確かな解決の方針が見えないので、意見は錯綜する。

ジャニーズ事務所の完全解散、所属タレントの他事務所(プロダクション)への移籍、ジャニーズ事務所のすべての財源を第三者の救済組織に移し、被害者の救済活動を完結する。私にはこの三点が解決の幹だと思う。きわめてシンプルで方向が明確で多くの人々が納得をするだろう。細かな枝葉の議論は、幹をはっきりさせてからでいい。

不登校問題の解決指針もシンプルにと考え続けている。詳細は拙著「わが子が不登校になったら？」を参考にしてください！（本の宣伝になりました。すみません！）

（丹羽 豊）